

第6回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	平成26年3月18日(木) 15:00~17:15
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】</p> <p>武藤 行儀 (岐阜乗合自動車株式会社)</p> <p>山田 勝美 (株式会社岐阜バスコミュニティ取締役社長)</p> <p>加藤 直紀 (名鉄バス株式会社運輸部長兼運輸計画課長)</p> <p>福田 英司 (東海旅客鉄道株式会社鉄道事業本部総務課課長代理)</p> <p>夫馬 康昌 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>澤井 利之 (岐阜県タクシー協会) (代理:畑佐保)</p> <p>山田 芳喜 (社団法人岐阜県バス協会)</p> <p>小島 秀俊 (各務原市自治会連合会会長)</p> <p>山本 直 (各務原市自治会連合会副会長)</p> <p>川島 勝弘 (各務原市自治会連合会副会長)</p> <p>市原 宗一 (各務原市自治会連合会副会長)</p> <p>堀井 ちのゑ (市シニアクラブ連合会理事兼女性部会部長)</p> <p>足立 千春 (子ども子育て会議委員)</p> <p>山本 博康 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官) (代理:下平真一郎)</p> <p>古田 茂 (岐阜バスコミュニティ労働組合)</p> <p>中村 澄之 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>加藤 仁彦 (各務原警察署交通課長)</p> <p>国島 英樹 (岐阜県都市建築部公共交通課長)</p> <p>横山富士夫雄 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>柘植 藤和 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>倉内 文孝 (岐阜大学)</p> <p>磯谷 均 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部商工振興課</p>

・ 報告事項

- ①ふれあいバスを考える会
- ②各務原市地域公共交通フォーラム
- ③地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

・ 議事事項

- ①ふれあいバス再編案(修正後)
- ②各務原市地域公共交通網形成計画案
- ③新しいイメージの発信 キャラクター
- ④ICカード乗車券「アユカ」導入について案
- ⑤平成27年度予算案

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>&lt;資料2について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 懇談会での説明は分かりやすく、良かった。</li> <li>● 前回の会議の意見が取り入れられていた。また、今回の地域懇談会の意見もよく取り入れられている。</li> </ul>	
<p>&lt;資料3について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般市民にとってフォーラムのような場で意見を求められるのはとても有意義だった。</li> <li>● アンケートを見ても開催して良かったと感じるが、一過性ではなく継続的に開催することが大切である。</li> </ul>	
<p>&lt;資料4について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 意図はしっかり伝わったと思う。その理由は事務局が課題を把握していたうえで今年度調査を実施して詳細な課題まで明らかにできたことだと思う。</li> </ul>	
<p>&lt;資料5について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 桜木町の新興住宅地へのルート変更を検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住宅数が増えてきた段階で検討したい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 六軒駅に乗り入れてほしいが駅前にロータリーが無いから難しいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 六軒北というバス停を新設するが、駅から見えるところにあるので、今回はこのバス停の利用をご理解いただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免許返納者は無料にしてほしいという意見に対する返答がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免許返納者に対してはICカードを配布したい。どのICカードかは免許返納者がそれぞれ選ぶようにしたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年に1回くらいのペースでICカードを配らないと効果が無い。どのくらいの数を用意するつもりか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例年の実績を基に検討し、27年度は6ヶ月間（10月スタート）40人分の予算を確保している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 笠松町としてはふれあいバスの乗り入れは問題ない。</li> <li>● 安全性、利便性、法律順守の観点から現地を視察した。地元でどういう意見があるのかを事務局に確認しながら判断した。現段階ではこの案がいいと思う。</li> <li>● 市民が利用しやすいルートだと思う。</li> <li>● 各務原で営業しているタクシー会社と一度調整したいと思う。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜バス緑苑団地線とふれあいバスとのすみわけをしっかりと図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいバスで駅へ直接行きたいとの意見もあるが、緑苑団地線を減便しないでほしいとの意見もある。バス会社とも歩調を合わせたいと考えている。住み分けは、駅までの所要時間差でできると考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の案と今回の案ではデマンドエリアの色塗りの範囲が変わっているが、使えるエリアのみ色塗りしているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいタクシーは乗降場間の利用だけであるが誰でも利用できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>資料 6 の P 66①に割引運賃とあるが、どこが実施するものなのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>割引運賃はふれあいバスでの実施を検討している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやかウォーキングのような取り組みでは地元自治体と協力しながら、進めている。地元の資源を掘り起こせたらいいと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>高山本線には新型車両が導入された。現在は全車両の 8 割が新型車両であり、来年にはすべて新型車両に統一される。</li> <li>P72 も表現を検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤解を招かないように表現を修正したい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>P74 に指標があるが、利用者数を指標にしても大丈夫なのか。沿線の状況により利用者数は変わってくる。</li> <li>PDCA サイクルの中に乗車人員が減少した際にどう対策するか盛り込んだ方がいいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数の現状維持は目標としたい。</li> <li>例えば那加駅前の整備など、目標達成に向け、市としてできることには取り組みたい。それにより、ふれあいバスも鉄道も利用してもらえるように努めたい。</li> <li>利用者数が減った際はその原因追究に努めたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者を確保できないと運行維持は困難になるので、ぜひ利用してもらいたい。</li> <li>ウォーキングイベントを開催しているので、ぜひ参加してもらいたい。</li> <li>イオンのオープン後、バスの利用者は増えている。さらに新加納駅の利用者も増えている。</li> <li>JR、岐阜バス、各務原市と協力していきたい</li> <li>現在はふれあいバスと連携できていないとの意見もあるが、今後はしっかり連携を図り、ぜひ乗継利用してほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市として人口推計しているのか。</li> <li>人口推計だけでなく、年代構成や地域の状況によりバス利用者は変わってくると思う。</li> <li>地方創生会議の場で各務原市は人口減少に対しダム機能を有しているといわれている。その役割が果たすためにも公共交通は大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市独自の人口推計ではなく、人口問題研究所の推計値を使用している。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今はスマートフォンでなんでも調べる時代なので、スマートフォンを活かしたサービスを取り入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ネットワークの見える化の取り組みがあり、市として入手したバスの運行情報等は運行情報を発信しているサイトへ提供し、どこでも検索できるようにしたい。</li> <li>● 今回、運行委託先として岐阜バスコミュニティに決まった。</li> <li>● それによりバス会社の費用負担としてバスロケーションシステムを導入する予定である。</li> <li>● 高齢者の中には携帯電話を持っていない方も多く利用できないとの意見もあるが、まずはできることからやりたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路整備や歩道整備に関する計画が記載されていないが、今後、バスに影響する計画は何かなのか。利用者の乗降時の安全確保にも関わるが、どのように考えているのか。</li> <li>● 今回の計画は強制力があるが、計画策定には関係機関との調整が必要である。具体的な計画へ進む際には関係機関との調整をしっかりと図ってほしい。</li> <li>● ICカード、回数券、1日乗車券は親和性が無く、互いに阻害し合うものとする。しっかりと検討してほしい。</li> <li>● 岐阜バスの既存路線を含めた1日乗車券は検討していないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路関係の計画については、現在、都市マスタープランを策定中である。バスに関係する部分で大幅な修正が必要となった際には、計画の変更を申請したい。</li> <li>● 関係機関との調整はしっかりとやっていきたい。</li> <li>● 現在、ICカードの導入はアユカを検討している。アユカでの乗継割引を導入したい。</li> <li>● 1日乗車券はICカードの割引率よりも高い金額になるよう考慮したい。</li> <li>● 乗継割引は岐阜バスとふれあいバスの相互間で可能だが、1日乗車券はふれあいバスのみの導入を考えている。</li> </ul>
<p>(倉内教授の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市計画で新たにできるものがあれば、バスの方へ反映させるのは当然である。だが、それとは逆に、公共交通にとって便利になる道路の建設を要求するなどしてほしい。</li> <li>● 現状、ICカードと1日乗車券の親和性が無いのはその通りである。しかし海外では、ゾーン制運賃など、ICカードと1日乗車券がうまく連携できている例もある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● P71 について、サービス水準と書いているだけでは意見が出ないのではないか。もっと具体的に記載すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 頂いた意見について検討したい。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後は、交流人口が大切になってくる。交流人口の確保には観光が重要になると思うが、1時間に1本の運行であれば、観光でも使えると思う。</li> <li>● イオンへの利用について、バス転換を図るなど取組んでほしい。</li> <li>● まずはふれあいバスを成功させ、将来は各務原だけに留まらず、交流人口を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バスへの転換を図れるように努めたい</li> </ul> <p>利 用促進を図っていきたい。</p>
<p>&lt;資料8について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ICカードのポイントは5,000円から10,000円まで開きがあるが、その間の金額についてもポイントを設定できないか。</li> </ul>	<p>(岐阜バスの回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5,000円から10,000円の途中ではポイントは加算されない制度になっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICカード導入のメリットは何か。</li> <li>● ICカードで得られた情報はどのように活用し、どの様に提供されるのか。将来的にICカードへの一本化を考えているのか。</li> <li>● 市として将来的にICカードをどの様に扱っていくと考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用実態のデータを集めることができるので、乗降調査の一部として扱いたいと考えている。</li> <li>● ICカードの導入により支払方法が増え、利用者の自由度が増すと考えられる。また、乗継割引もある。</li> <li>● アユカを持っていない人は従来通り、現金で利用してほしい。</li> </ul>

#### 倉内教授・総括

今日はお疲れ様でした。今日は途中でも発言させていただいたので、特に申しあげること多くはないです。一点だけ思ったのは、形成計画のところでは事業者さんの方からもご意見いただいたように、かなり強制力が最終的に伴うものでございます。そういった意味では、なかなか書きこまれ過ぎると困るところもあるでしょうから、その辺りをきっちり調整していただければと思います。ご意見は目標値に関して、現状維持のところいわゆる人口が減少していくという話しもあります。1つは確かに人口問題研究所のデータでは減っていくというところですが、それを見て減っていくのだなと憂いのはしゃくに障るというのが正直なところです。要は先程交流人口の話もありましたが、やっぱり皆さんと一緒にがんばりましょう、出来るところからやりましょうといった話しもあつたなかで、少なくとも現状維持を前提として楽しく皆でやっていくのがいいのではないですかというくらいの気分でやっていただければいいかなと思います。あまり突拍子もない数字では良くないですが、現実可能な範囲のがんばれるところでうまくあたりを付けていただいて、みんなで前を向いて、上を向いて出来ればいいと思います。